

はかたおり 博多織

所在地/福岡市博多区
指定/無形文化財



七献上博多織帯 小川規三郎氏 作

織物は、横糸と縦糸からなり、それを織り込むことで製品になります。博多織は、細い縦糸を多く使って、太い横糸を織り込み、主として縦糸を浮かせて模様にするのが特徴的な織物です。材料は色をつけた絹糸や金糸、銀糸などで、着物を着るときに使う「帯」が有名です。落ち着いた渋い色のものから鮮やかな明るい色の博多織の帯は使うときに、キュッキュと音がするといひます。

博多では古い時代（今から約 2000 年前）から中国や朝鮮半島の人々と交易（※1）をしていました。交易品の中に織物があり、その技術を学び作り始めたといひられます。江戸時代（今から約 400 年前）になり、福岡藩のお殿様が博多で作った最高級の織物を江戸幕府に献上（※2）し、それを「献上博多」などといひ、日本三大織物（※3）とまで呼ばれるようになりました。

現在では機械で織られたものが多く、帯だけではなく、私たちの生活の中で使えるバッグや財布など様々な製品があります。現在でも昔ながらの手織りで伝統的な帯などをつくる人もいます。近年では、博多織の技術を幅

ひろく学べる新しい場もでき、その技術が受け継がれています。



織物を作っている様子

※1 交易：お金と物、または物と物の交換や売買をすること。

※2 献上：自分より位が上の相手に物を差し上げること。

※3 日本三大織物：博多織のほか、京都の西陣織、群馬の桐生織のことを言う。

【もっとくわしく調べたい】

○「博多町家」ふるさと館 福岡県福岡市博多区冷泉町 6-10 Tel 092-281-7761